P-33 途上国における歯科領域へのヘルスプロモーションの試み—ネパール王国 テチョー村での実践を通して—

○蒲池世史郎*・中村 修一**・大野 秀夫**・小川 孝雄***・安部 一紀****

*ネパール歯科医療協力会, **九歯大・生理, ***九歯大・保存1,

****西南女短大・栄養生化学

Pilot Study for Oral Health Promotion in Thecho Village, Nepal

○Seishiro Kamachi *, Shuichi Nakamura**, Hideo Ohno**, Takao Ogawa*** and
Kazunori Abe **** (*Association of Dental Cooperation in Nepal, **Physiology and
Operative Dentistry, Kyushu Dental College, *Biochemical Nutrition and Seinan
Jogakuin Junior College)

Key words: Nepal / Health promotion / Health education

はじめに

演者らは1989年からネパールにおいて、歯科学術調査と歯科医療協力を行っている¹⁾。特に歯科医療協力は初期段階は疾病対策が中心であったが、現地の状況がわかるにつれ、活動の中心がPHC（プライマリーヘルスケア）やHP（ヘルスプロモーション）を取り入れた健康プロジェクトに移行しつつある。特に1994年から現地ヘルスワーカーやローカルリーダーを対象とした歯科保健専門家の養成プログラムであるヘルストレーニングを始めた。これまでに2度プログラムを実施したのでその概要について報告する。

方法

ヘルストレーニングは七次隊と九次隊において、ヘルスポスト常駐のナースやヘルスワーカー、小学校の教師やマザーボランティアなどのローカルリーダーを対象に実施した（定員12名）。インストラクターは5名の日本側隊員担当した。

結果および考察

ヘルストレーニングの内容は講義、実習およびフィールド見学からなり、講義は1) 歯牙の解剖、2) 齲蝕と歯周病の病理、診断および予防法の概念、3) ブラッシングの理論と実習、4) 食物と口腔疾患、特に砂糖の害などについて行った。これらの講義にはネパール語と英語を並記した教科書を作成した。また教材として基本セット（ミラー、探針、歯ブラシ）やブラッシング指導用模型を受講生に配布した。講義は休みを挟んで1週間、テチョー村ヘルスプロモーションセンターで行った。フィールド見学はテチョー村の小学校で巡回歯科保健班が実施している現場で行った。フッ素洗口について

は洗口液の調剤とフッ素洗口の様子を見学させた。

ネパールにおいて歯科保健医療を確立する為には、全国的なレベルでの歯科医療機関の設置と歯科医師養成機関の設立が必要である。しかし、現在のネパールの経済的、社会的状況は近未来においてもその可能性は期待できない。そこで、緊急の歯科保健対策が必要となる。目標は「低い齲蝕罹患率の維持と歯周病の対策」で、実際にはシュガーコントロール、ブラッシングの普及、フッ素洗口の実施、抜歯、歯石除去および簡単な充填を行う為の簡易歯科診療をなどが必要であろう。これらの課題を具体的に実現する為には、専門家による巡回歯科保健班を作りネパールにおいて地域的に展開すると共に、ネパールの各地域で健康教育ができる歯科保健の専門家を養成する必要があると思われる。

本事業は1994年度に開始、初年度はテチョー村の属するラリトプール郡の各村のヘルスポストの看護婦やヘルスワーカーを対象としたが、次年度はローカルリーダーとしてのマザーボランティアグループや学校の教師に参加を要請した。このプロジェクトの評価を行うため、受講生全員にカリキュラム終了後レポートを提出してもらった。その結果、カリキュラムの目的や内容が受け入れられ、理解力も思ったより高ことが判った。今後はさらにこの教育プログラムを進め巡回歯科保健班のスタッフとして受講修了者の活用をはかりたい。

結論

ネパールの歯科医療状況を改善する目的で始めた現地歯科保健専門家の養成教育はネパールでの歯科保健を推進するために有効な健康プロジェクトと考えられる。

文献

- 1) 中村修一：ネパールにおける歯科医療協力について。歯界展望別冊 371-373, 1994.